

令和4年度 新潟県立駒林特別支援学校 学校評価のまとめ

1 各学部の成果と来年度に向けて

(1) 小学部

1組は、独自に修学旅行と校外学習を実施しました。感染症対策を講じ、保護者の方の協力を得ながら実態に合わせて無理なくゆったりした行程で行うことができました。

2組は昨年度に比べて人数や学級が増えたこともあり、いろいろな学習場面で児童にとってより良い方法を模索してきました。具体的には、学習を進めるのに適切な人数や実態を考慮してのグループ編制、校外学習を学部全体でなく各学年の発達段階に合わせた内容にしたこと等が挙げられます。より児童の実態に合った、ねらいが明確な学習を展開できたと考えています。

体育や人権教育の授業では発達段階に応じた児童のグループ編制とともに、職員も学級の枠を超えて支援を担当しました。学級外の児童を支援することで、小学部の職員全体で子どもたちを育てるという意識をより強くもつことができました。また、わかこま祭では、小学部の発表に向けて学部一丸で取り組むことができました。当日は、保護者の方にはリモートでなく実際に子どもたちが張り切ってダンスをする様子を参観していただくことができました。

来年度に向けては、一日の流れは変えずに、日課表を見直し、教科や休み時間の配置を工夫しながら改善を図ります。また、感染症対策も引き続き講じながら、マラソン大会等、保護者の方に実際に学習活動を見ていただく機会を増やしていきます。6年生では修学旅行、4・5年生では宿泊学習を実施する予定です。

(2) 中学部

コロナ感染症対応等の心配もありましたが、修学旅行や宿泊学習・校外学習など、たくさんの体験活動を行うことができました。日頃の学校生活ではできない活動を通して、自分のことは自分で行う意識が芽生えたり、他者を意識して行動することができるようになったり、生徒たちのよい姿をたくさん見ることができました。来年度も計画的に体験活動を行っていきたいと思います。

また、行事や校外学習での特設係や日常の係だけでなく、生徒たち自身が役割分担をする機会を設定したり、生徒の実態に合わせていろいろな役割を意図的に与えたりしたことで、自分の仕事だという自覚をもち進んで取り組む姿が見られるようになりました。

仕事学習や校内実習では、見通しをもって取り組める環境と活動の内容や目標をそれぞれの生徒に応じて設定することで、落ち着いて時間いっぱい作業に取り組めるようになってきました。

またそれに伴い、時計やタイマーを見て終わりまでの時間を確認しながら作業に取り組むなど、時間を意識する姿が見られるようになってきました。

新しくボードゲームなどを購入し、休み時間にも共有スペースで学年の枠を超えて一緒に関わりながら楽しむ様子が見られました。今後は、タブレットの活用や図書環境を充実させていきたいと考えています。

(3) 高等部

いろいろな場面で感染症の予防対策を行いながら行事や授業を実施してきました。修学旅行は今年度も県内で実施し、宿泊学習については実施しませんでした。ただ、活動を生徒の実態に合わせて、学習内容を校外学習等でおぎなったりしながら有意義な経験を積むことができました。

課題学習や職業生活などグループ編成をしている授業では、今年度も生徒の実情に応じて柔軟にグループの変更を行い、一人一人のニーズに対応してきました。

来年度の修学旅行については今年度と同様に県内での実施に向けて準備を進めています。宿泊学習については新潟市近辺での実施に向けて、これから検討していく予定です。

今後も学習や生徒指導等について、高等部全体で共通理解を図りながら、状況に応じて最善の策がとれるように努めていきます。

2 保護者アンケートより

ほとんどの項目で、「よくあてはまる」「ややあてはまる」の肯定的な評価が 90%以上か、それに近い数値となっています。多くの保護者の方から、当校の教育活動を高く評価していただいている結果と捉えています。一方で、「あまりあてはまらない」「全くあてはまらない」の否定的な回答や、「分からない」との回答をいただいた項目も複数あります。特に質問①は、否定的な評価をいただいた保護者の方が 10%を超えています。これは、昨年度と同じ質問に対する否定的な回答の割合からは、減少したものの、高い数値といえます。また、質問⑥に対する「分からない」と回答した方の割合は、昨年度から増えています。

質問⑥の「いじめを未然に防止する取組」については、普段から職員が児童生徒一人一人の様子を丁寧に観察するとともに、毎月の予定でもお知らせしている通り、学期に1回、児童生徒にアンケート調査を行い、いじめの早期発見に努めています。12月には、人権教育強調週間を設け、挨拶運動や相手を思いやる言葉や行動の授業を行いました。また、県が行ったいじめ防止についての点検でも、当校はいじめ防止に関する取組をしっかりと行っていると評価されました。

アンケートでの否定的な評価や「分からない」との回答を真摯に受け止め、保護者の方のお考えを丁寧に聞き取ったり、学校の取組を分かりやすく伝える工夫をしたりして、保護者の方と連携しながら、よりよい駒林特別支援学校となるよう来年度も取り組んでいきたいと考えています。

記述欄に記載していただいたご意見では、他の専門機関等との連携の在り方や学習活動への取り入れ方について具体的にご意見をいただきました。ありがとうございます。学校と家庭や外部の支援機関との連携は大切なことと考えております。改善するよう努めてまいります。気になることやご意見がありましたら担任までお知らせください。校内実習の期間が長く設定されていることによって他の学習に影響するのではないかとのご心配の声もいただきました。当校では、「ひろげよう たかめよう 生きる力」を学校教育目標とし、「生きる力」の育成に努めています。そして、この校内実習期間や職場実習期間は、日頃培っている「生活する力」「働く力」「楽しむ力」を総合的に発揮する貴重な学習場面と捉えています。そのため、中学部では前期に1週間、後期に2週間の校内実習を、高等部では前期に3週間、後期に4週間の校内実習、職場実習期間を設定しています。来年度もこの取組を継続していきますので、ご理解

とご協力をお願いいたします。居住地の小中学校との交流についてもご意見をいただきました。新型コロナウイルス感染症が拡大する以前は、小学部の児童が京ヶ瀬小学校の学校行事に参加したり、中学部の生徒が、近隣小中学校に出向き、わかこま祭の宣伝活動やポスターの配付をしたりするなどの活動を行っていましたが、現在は中断しております。今後、感染症の状況を見ながら、オンラインによる実施などできるところから、小中学校との交流を行っていきたいと考えております。また、「学校でいつもと違う様子等があると連絡をくれて、とてもありがたいです」「いつも本人に合わせた指導をして頂きありがとうございます」等、我々職員にとってたいへん励みになるご意見も多くいただきました。ありがとうございます。この他にも多くのご意見をいただいています。来年度の計画を立てる上で参考にさせていただきます。アンケートへのご協力ありがとうございました。

3 児童生徒アンケートより

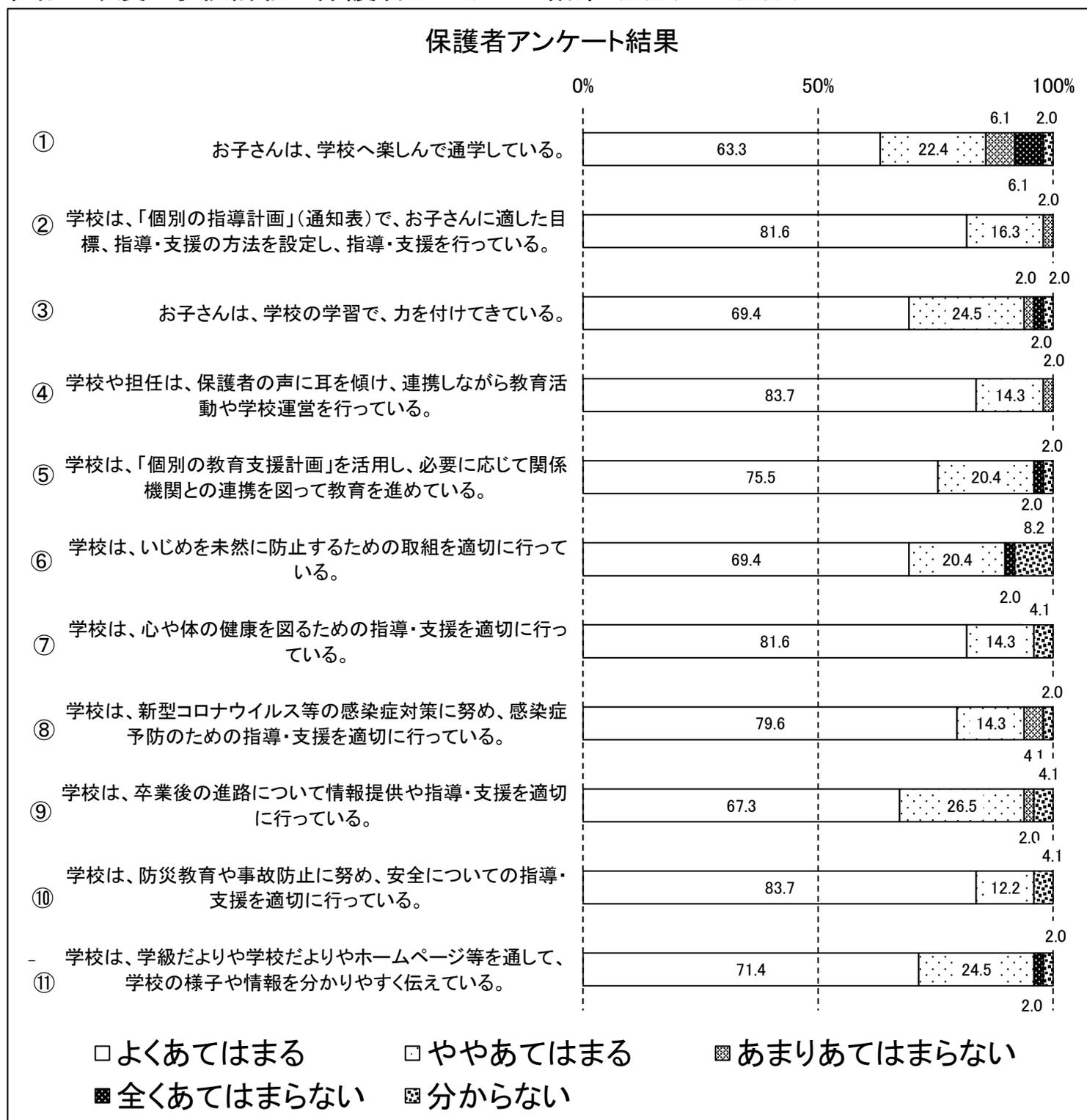
すべての項目で、○(はい)の肯定的評価が80%以上になっています。また、①～③は昨年度と同じ質問ですが、いずれの質問でも、○(はい)と回答した割合が昨年度よりも増加し、?(わからない)と回答した割合は昨年度より減少しています。大多数の児童生徒にとって、現在の学校生活が満足できるものになっていると捉えています。一方で、①②の質問に対して、×(いいえ)と回答した児童生徒が一定数います。これらの児童生徒がいることをしっかりと受け止め、個々の実態に応じた支援を心掛け、一人一人の児童生徒が力を伸ばし、充実した学校生活を送れるよう努めていきます。

また、記述欄の「学校で、がんばりたいことや、やりたいことなどを書いてください。」に対しては、「課題をがんばりたいです。」(小)、「たいいくをがんばりたいです」(小)、「ランニングタイムで57周をこえることです。」(中)、「しごとをがんばる」(中)、「集中して、校内実習や職業生活にとりくみたいと思います。」(高)、「がんばりたいことは、わり算などのとき方をおぼえることです。」(高)など、児童生徒が多く頑張りたいことなどを書いてくれました。これからも児童生徒一人一人の思いや考えを大切にしながら、教育活動に取り組んでいきます。

4 学校評議員会より

学校評議員会では、卒業後の生活を見通した切れ目のない教育活動について話題に上りました。卒業後の自立した生活に向けて、発達段階に応じながら、必要な指導、支援を充実させていくことが求められます。それぞれの児童生徒の将来の姿を具体的にイメージし、小中高等部が連携をしながら、教育活動を行っていきたいと思います。また、市立小中学校との連携についても同様で、各小中学校との連携する場を充実させ、当校と小中学校間においても切れ目のない指導・支援ができるよう環境を整えていきたいと思います。今後も児童生徒の成長のために努力をしていきたいと思います。

令和4年度 学校評価 保護者アンケート結果 (回答数49 回答率79.0%)



令和4年度 学校評価 児童生徒アンケート結果 (回答数55 回答率87.3%)

